



77

麻生区
文化協
会報

麻生区の風物紹介

おんまわしこうえんちようせつち

「恩廻公園調節池」

柿生駅から「市ヶ尾駅・桐蔭学園」行きのバスで「亀井橋」で下車。歩いて5分程の所にあります。

恩廻公園調節池は、麻生区下麻生、町田市三輪町、横浜市青葉区寺家町に隣接しており、鶴見川の洪水を一時的に溜めるために作られています。雨が降り鶴見川の水位が上がると、越流堤を超えて調節池（公園の地下トンネル）に溜まる仕組みです。トンネルは公園の地下25メートルにあり、長さ600メートル、内径約16メートル、貯留容量11万立方メートルの地下調節池で、排水ポンプが2台あります。

恩廻公園は、鶴見川の氾濫を抑えるための流路変更に伴って旧流路跡に作られた長さ約800メートルの公園です。地域の憩いの場として自治会の夏祭りやグラウンドゴルフ、テニス等に活用されています。

今は鶴見川本流と麻生川が鋭角で合流していますが、1973年より以前は麻生川に鶴見川本流が直角にぶつかっていました。その頃の土手は竹で覆われ、家屋や電線が見えないので、時代劇の撮影が頻繁に行われていました。平時の流れは穏やかで、鮎・鮒・鰻・シジミなど「川の幸」が捕れました。また、堰の上流には深いところがあり、水遊びができました。しかし、ひとたび台風や大雨が続くと川が氾濫し、付近の田畑では麦や米などの農作物が水に浸かったり流されたりして大きな被害が出ていました。

地域では、1970年頃より開発が進み、地面が土からコンクリートに変わり、昨今の異常気象も加わり、大きな水災害を起こすことが予測されます。防災・減災の観点からも一度見学されると良いと思います。

（文／井上俊夫、写真／小田島寛）

からむし第77号の
ラインナップをご紹介します

P1 麻生区の風物紹介

鶴見川の氾濫を抑えるための流路変更に伴って旧流路跡に作られた恩廻公園。地下にある鶴見川の洪水を一時的に溜めるための調節池を井上俊夫さんが紹介します。

P2 東哲也新麻生区長に聞く

本年4月に新たに麻生区の区長に赴任された東（ひがし）哲也さんはハード系のイメージが強い方ですが、「心を耕す」として芸術・文化の街づくりを目指すと言います。

P3 相澤悟市民館長に聞く

昨年12月から市民館長に就任された相澤悟さんは、市民館が民間委託になることで、民間ならではの知恵を活かしたサービスを期待すると話されました。

P4 文化協会設立40周年記念事業

麻生区文化協会が創立40周年を迎えて行った、さまざまな事業を紹介します。

P5 団体委員の活動報告

麻生区美術家協会の40周年記念展と、新加入の「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」の紹介です。

P6 文化協会の活動報告

4月に開催された定期総会、新設された本会ホームページの紹介、および、過去10年の役員の一覧を掲載します。

P7 行事報告

笠原秋水先生米寿記念「書と教育二刀流展」の報告、美術工芸部主催「舞台衣装の女優さんを描く」デッサン会の開催報告、夏休み子ども文化教室中止報告、俳句大会開催予告です。

P8 行事報告

3月に開催されたアルテリッカ新ゆり美術展を佐藤勝昭実行委員長が、ミューザ川崎市民交響楽祭について参加した麻生フィルの横須賀朝子さんが報告します。

文化協会のこれから

麻生区文化祭、七草粥の会、文化講演会、アルテリッカ新ゆり美術展など。

編集後記

東哲也 新麻生区長に聞く

2025（令和7）年4月に新たに赴任された東哲也麻生区長に、編集委員がお話を伺いました。

◆麻生区に着任されて感じられた印象はいかがですか？

私はこれまでの勤務先がずっと川崎区だったので、麻生区役所勤務の辞令をいただいた時は少し驚きました。着任してみると、麻生区は調和のとれた住みやすい場所だなと感じています。街並みが整っていて、芸術・文化が根付いており、一方、岡上、早野、黒川などには緑あふれる農地もあり、美しい土地だというのが私の印象です。

◆これまでどのようなお仕事をされていたのでしょうか？

私は技術職ではありませんが、港湾局やまちづくり局などハード系の事業局が中心で、芸術・文化施策にはあまりご縁がありませんでした。個人的にはジャンルを問わず音楽を聴くのが好きですが、自分で何か演奏することはありません。

◆横浜市営地下鉄の延伸にもなう新百合ヶ丘駅周辺のまちづくり構想についてのお考えをお聞かせください

地下鉄だけではなく、新百合ヶ丘駅は、小田急多摩線から京王線に乗り換えれば、橋本まですぐです。その橋本では、リニア中央新幹線の新駅の整備が進められており、今後、麻生区の交通利便性が飛躍的に高まります。現在、新百合ヶ丘駅周辺の新たなまちづくりの検討が進んでいますので、これは、市外から若い人たちを呼び込む良いタイミングだと思っています。

◆川崎市は縦に長く、南部と北部とではかなり意識や性格の違

いがあると感じているのですが、ご経験からいかがでしょうか？

北部の人は川崎に港があることを知らない。一方、南部の人は麻生区がこんなに緑が多いことを知らない。南北で意識の差があるのはたしかですが、交流の場面を多くしてその差を埋めていきたいと考えています。たとえば、麻生区の子どもたちを川崎港に連れていくとか、南部の子どもたちを麻生区に呼んで芸術・文化を学んだり、農業を体験したり、それぞれの特色のある地域文化を川崎市全体の文化にしていこうという動きは、シビックプライドを高める上でも大切ですね。

◆麻生区には、大きな美術作品を常設する美術館がないので、アルテリツカ新ゆり美術館では、トウェンティワンホールを美術館仕様にして大作を展示するなどの工夫をしていますが

新しい市民ミュージアムが生田緑地に建設することが決まりましたので、麻生区に大きな美術館をつくるというのは難しいと思います。ただ、現在、まちづくり局主体で検討を進めている新百合ヶ丘駅周辺まちづくりにおいて、麻生

区民のみなさまからいろいろなアイデアを伝えていけば、よい答えが出るかもしれませんね。

◆市の仕事も、デジタル化がさらに進んでいくと思いますが、それについてはいかがですか？

今、普段の生活では、スマホで対応していかないと、なかなか物事が進まなくなっています。市の仕事も同様で、市民の利便性向上や職員の働き方改革等を推進するため、DX化をさらに進めていく必要があると思います。

ただ、デジタル社会の進展の影響で、仕事や学校、コミュニティにおいて、人の判断がデジタルの世界と同様に二者択一になり、人の心が固まっていくのはよくない傾向ですね。私は、人の心を調和するのが芸術・文化だと思っています。たとえば、農地も耕さないでほうっておくと作物はうまく育ちません。同様に人の「心を耕す」ことが大切です。これからも文化協会のみなさまには、多くの方々の心を耕していただくことをお願いしたいと思います。

◆おわりに、区長の抱負などをお聞かせください

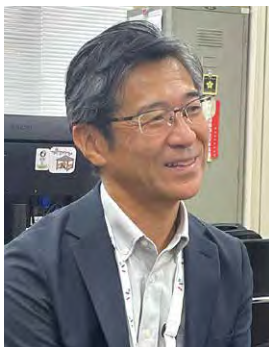
麻生区のみなさまの高い関心は、安心・安全なまちづくりにあります。防災・防犯・治安などを充実させていきたいですね。今後、新たなまちづくりによって多くの人たちを呼び込むためにも、安全・安心なまちづくりが重要と考えています。

また、麻生区の地域資源を活かしながらまちづくりを進めるために、芸術・文化も高い優先度を持つて取り組んでいきたいと思っています。

* * *

4期続いた女性区長から男性区長にかわったということで、興味をもってインタビューに臨みました。東区長は、これまでハード系のお仕事をしてこられたということで、新百合ヶ丘駅周辺まちづくりを推進するお立場にありますが、「心を耕す」として芸術・文化を尊重したまちづくりを目指しておられることが印象に残りました。

（佐藤勝昭・横須賀朝子）



東哲也麻生区長



相澤 悟 市民館長に聞く

2024(令和6)年12月から麻生市民館に配属されておられる相澤悟館長に編集委員がお話を伺いました。



相澤悟市民館長

◆麻生区の印象は？

市役所に入って最初に配属されたのが麻生区でしたので、この地域についてはよく存じ上げておりました。私は山梨県の出身ですので、黒川や岡上など、緑が多く里山の風景など懐かしく身近であり麻生区にはとても愛着を感じています。

◆3月までは岡上分館にも勤務しておりましたが、どのように取り組まれておられたのでしょうか

岡上分館は、地域の公民館のよう

な存在で、地域の方々と密接にかかわってきました。もともと人との関わりや、お話しすることなど好きなのですから、いろんなグループの方に積極的に声をかけるようにしてきました。市民館は、これから秋にかけて展示会、発表会などあり、非常に楽しみです。

◆市民館の役割として、市民館と市民とが共同で行う企画・活動などがあり、また、居場所的な空間が求められておりますが

市民館には大きく分けて二つの役割があります。一つは、「市民の活動の場」言ってみれば貸し館、もう一つは「講座など学習機会の提供や支援」です。

これらは、どちらかというと目的を持って市民館に来られる方へのサービスですが、施設の有効利用という視点では、学習スペースを設置したりしています。

また、昨年度から、誰もが気軽に訪れることができる憩いの場として

とか、市民の皆さんが持つているスキルなどを共有する場として「ひとのわ」事業を始めましたが、これまでに、切り絵やボードゲームなどを実施しています。

◆来年度から指定管理者制度に移行するようですがこれまでの市民活動にどう影響するか心配の声もありますが

指定管理者制度は、民間のノウハウを活かして、市民館の管理運営を効果的・効率的に対応していく目的で行われるものです。若い人の利用が少ない、施設の有効活用といった課題がありますが、これまで市が培ってきた知識・経験の継続や公共性にしっかりと配慮した上で、民間事業者の発想やマンパワーなどを有効に活用して行きたいと思っています。

既に中原区や高津区の市民館が今年から先行していますが、市民館一階の奥にキッズスペースを設けたり、市民館だよりをカラー版にしたり、SNSを活用するなど、新たな創意工夫が見られるようです。

麻生区は、来年から市民館・図書館だけでなく、岡上分館・柿生分館を含め4館まとめて指定管理者制度に移行します。既に事業者の選定結果は公表されていますが、今後

は様々な手続きを経て、正式の決定となれば、年度の後半には業務の引継を予定しています。

市民館の管理運営は民間の事業者が担うようになりますが、市側も区役所に生涯学習支援担当を置いて市民館業務をサポートしていきます。

◆おわりに、ご自身の余暇の活動をお聞かせください

私は、スポーツをする機会が多く、特に球技が好きで、テニスやバレーボールをやっています。バレーボールは3つのチームにかかわっていて、ほぼ毎週のように練習に参加しています。じっとしているのが好きでないのも、スポーツのほか、買い物や料理など、体を動かすようにしています。

相澤館長にはご多忙にもかかわらず、お話をいただきありがとうございます。明るく、気さくで行動的な方なので、すっかりくつろいでお話しを伺うことができました。

指定管理者制度に移行しても、区役所に担当を置いて利用者との



インタビューの様子

関わりがあることを伺い、安心しました。今後ともよろしくご協力をお願いします。

(佐藤勝昭・橋本周)



麻生区文化協会設立40周年 記念事業について

麻生区が誕生して1年後の

1984（昭和59）年11月、麻生区文化協会は設立されました。設立にいたる記録をひもときますと、この地区に住まわっていた錚々たる文化人の方々が度重なる話し合いを持ち、今の麻生芸術・文化のまちづくりの礎になるべく文化協会を立ち上げようとした熱気が伝わります。爾来40年、多くの方々に支えられ、導かれて歴史を積み重ねてきました。その40年の歩みを振り返りながら、いくつかの記念事業を行いましたので、ご報告します。

文化協会では、毎月定例の役員会を開催していますが、2024（令和6）年6月からその役員会の終了後を切り替えて菅原相談役、橋本監査にも加わっていただき、40周年記念実行員会を毎月開催してきました。さまざまな企画提案がありましたが、取組み期間が短かったため、また予算も特別会計からの支出として限りがあるため、基本的に30周年から40周年までの期間を対象として、できる限りのものを実施しようということになりました。

最終的には、次の事業を40周年記念事業としました。

①会員の皆様の現状とこれからの文化協会へのご意見を聴くアンケート調査を実施しました（「からむし」記念号にその調査結果の概略を掲載しました）。

②各部会の事業に「麻生区文化協会設立40周年」の冠をつけて少しでも工夫をしていただき開催することをお願いしました。

③「からむし」76号を40周年記念誌として編集することになりました。各界からのお祝いの言葉とインタビュー、各部会からの報告、実行委員による座談会、10年間の「からむし」表紙の掲載など50ページにわた

り、2025（令和7）年3月に発行しました。

④例年の文化サロン部の文化講演会を記念講演会とし、3月15日に開催しましたが、その前段でこの10年間に功績のあった方々の表彰を行いました（講師が新型コロナウイルスに感染し出演ができなくなり、急遽代役として会長板橋が「川崎にちなむ本」をテーマに講演しました）。

⑤会員から情報提供の迅速化、簡易化などの要望が多かったことから、従来のホームページを大幅に改訂しました（2025年度は試行期間とし、次年度から本格実施とします）。

⑥あさお古風七草粥の看板が野外事業のため朽ちてきましたので、新たに布看板を作成しました。

以上、不十分なものもございましたが、皆様のご協力をいただき実施できたことを実行委員会より感謝いたします。

なお、アンケート調査から、各団体の共通の課題として、会員の高齢化、後継者不足による活動継続の難しさ、また文化協会への要望として、若年層へのアプローチ、情報提供の迅速化などが多く寄せられました。このようなご意見に答えられるよう、引き続き文化協会の運営へのご協力をお願いいたします。

（会長 板橋 洋一）

からむし



40周年記念誌 からむし 76号
2025（令和7）年3月 麻生区文化協会



文化講演会（表彰式）



リニューアルしたホームページ



あさお古風七草粥の会

団体会員の活動紹介

創立40周年記念 麻生区美術家協会展

1985(昭和60)年に麻生市民館に市民ギャラリーがオープンした際に、区呼びかけで、麻生区在住の専門美術家が集まって「麻生文化センター開館記念 麻生区在住作家絵画展」を開催したのが最初でした。日本画家12名、洋画家18名の計30名が出品しました。

その後、この絵画展に参加した美術家に呼びかけ、23名の賛同を得て1985(昭和60)年9月に設立したのが、麻生区美術家協会でした。

現在本会には、洋画17名、日本画(水墨画を含む)3名、彫刻1名、工芸1名の計22名の会員が所属しています。会長はこれまでの佐藤英行氏に代わり、今年5月に三村修一氏が就任しました。

本会は、毎年10月にあさお区民まつり協賛麻生区美術家協会展を麻生市民館の市民ギャラリーで開催するほか、アルテリッカ新ゆり美術展に参加、また、麻生区文化協

あさお区民まつり協賛
第40回 麻生区美術家協会展

特別展「ふるさと麻生を描く」
10月3日(金)～8日(水) 10:00～17:00
美術家協会展「自由作品」
10月9日(木)～13日(月) 10:00～17:00
会場：麻生市民館ギャラリー
小田急線新百合ヶ丘駅北口徒歩2分
TEL: 044-951-1300

麻生区美術家協会は今年創立40周年を迎えます。これを記念して前期は「ふるさと麻生を描く」展を、後期は例年通り会員のベストの作品を展示します。ご来館を逃されば幸いです。

麻生区美術家協会会長 三村修一

麻生区美術家協会会員

石井 博 堀内 貴子 大創 三千子 藤井 玉華
大前 美穂利 加藤 久子 佐藤 勝昭 佐藤 美行
志村 幸美 杉崎 博夫 鈴木 早苗 千葉 純子
西野 優子 篠原 悦子 藤井 肇 藤村 高美子
松島 征一郎 松田 洋子 三村 修一 宮崎 早人
矢野 美穂 山口 小枝 (50音順)

会の加盟団体として文化協会主催のデッサン会「舞台衣装の女優さんを描こう」に指導者として全面的に協力しています。

今年の美術家協会展は、10月3日～13日に市民ギャラリーにて開催されます。

会期中、前期(3日～8日)は、40周年記念展として、「ふるさと麻生を描く」をテーマに麻生区に関わる作品を展示、後期(9日～13日)には、麻生区民まつり協賛美術展として、従来通り各自の自由なテーマで作品を展示しますのでご来場をお待ちします。

(麻生区美術家協会

事務局 佐藤 勝昭)

芸術・文化の香りただよ、新百合ヶ丘に向けて 「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」

理事長 白井 勇

はじめまして。これまで麻生区文化協会の皆様には、NPO法人しんゆり・芸術のまちづくりの会員としてご加入いただいていたのですが、このたび私どもも文化協会に加入させていただくことになりましたので、よろしくお願いいたします。

NPO法人しんゆり・芸術のまちづくりは、新百合ヶ丘駅周辺の第二のまちびらきといわれた20年前の万福寺の開発、アートセンターの開設、昭和音楽大学の厚木からの移転がきっかけでした。麻生区が誕生して20年、その新たな中心地として誕生した新百合ヶ丘駅周辺も、たまプラーザや町田駅などの周辺駅に押され気味でしたが、これを機に街全体でしんゆり芸術のまちづくりを盛り上げようと、市民、昭和音大、日本映画学校(当時)、事業者、商店街

は役所の有志が集まり結成されたものです。

毎週のように夕方に集まってまちづくりの勉強会を重ね、飲みながら談話風発の議論を交わし、しんゆり芸術のまちづくりはどのようなにするべきか試行錯誤してきました。

その手始めが、今でも冬の新百合ヶ丘駅周辺を彩るイルミネーション、KIRARAアートしんゆりでした。

短期間の取組にも関わらず多くの方々からご奉仕、ご協力をいただき、美しくライトアップされた新百合ヶ丘の街並みは、市民に温もりと笑顔をもたらししました。

この成功を踏まえ、継続したまちづくりを実践していこうとNPO法人を立ち上げました。そのプロセスで、川崎市の友好都市である音楽の都ザルツブルグ市を市民親善大使として訪れ、また昭和音大の研修所があるベネチア近郊のスキアボンという町を麻生区長の親書を持って訪ねたという思い出もあります。

その後、区役所からのご協力をいただきながら、ストリートピアノなどさまざまなイベントの開催、文化・

芸術団体の交流、地域ブランドの確立、PRボードやホームページなど広報などに取り組んでいます。

とりわけ、年2回のアートセンターでの交流カフェとそのカフェに集まる方々たちによる「カフェ・グランデあさお」は、手づくりの企画・運営によってステージ、ワークショップ、展示などが行われ、プロとアマが一体になったこの街ならではのイベントとして、市民の皆様にも楽しんでいただけます。

文化協会の皆様にもご参加いただき感謝しています。

今後、横浜市営地下鉄の新百合ヶ丘駅までの延長が決まり、第三のまちびらきとして内外から大きな期待をかけられています。

川崎市の文化振興計画にもありますように、文化・芸術が豊かなまちづくりに資するモデルとなるよう、手をたずさえて共に築き上げていきたいと思います。よろしく願っています。

(文責 板橋 洋一)



白井 勇 理事長



カフェ・グランデ あさお

麻生区文化協会の活動報告

2025年度

総会報告

2025（令和7）年度総会が4月20日午後2時から、区役所4階の第1会議室で開催されました。はじめに板橋洋一会長から「今後連帯・連携が必要、新ホームページ

設置を通じ情報発信に努める」と挨拶がありました。

次いで、東哲也新区長、相澤悟新館長の来賓挨拶があり、出席された議員3名の紹介（鈴木、石川、小林）のあと、横須賀朝子氏を議長として選出し、議事に入りました。

報告事項では、事業報告、会計報告、監査報告、40周年記念事業報告があり承認されました。

審議事項では、事業計画案、予算案、規約一部改正案が提案され、質疑の後、承認されました。

その後、アカデミー部、美術工芸部、舞台芸能部、文化サロン部に分かれ、部会が開かれ、各部の部長・運営委員会計が選出され、会長に報告されました。

（佐藤 勝昭）

ホームページをリニューアル

当協会のホームページをチェックして、利用されている方も多くいらつしやると思います。これまでは、

総務部の佐藤氏のご厚意で、個人のホームページに間借りする形になっていました。この度、創立四十周年記念事業のひとつとして、独自のホームページ作成を進めてきました。メニューや基本的なコンテンツは、本年3月に完成していますが、これまで「紙」で行ってきた事業の案内募集や申込みのページは、事業実施の都度作成を進めています。

ホームページの運営、管理について当面は委託先が担当しています。が、将来的には総務で担当できるよう勉強を進めています。掲載内容は、タイムリーに更新することを目指しています。会員の皆様からの情報や写真・原稿などの提供をお願いします。

（井上 俊夫）

30周年から40周年（10年間）の役員

10年間の役員リストは、40周年記念誌（からむし第76号）にページ数の都合で掲載できなかったため、今号に掲載いたします。

【会長】

2014～2023年

菅原 敬子

【副会長】

2014～2015年

菅野 明、山室 茂樹

横須賀 朝子

2016～2017年

吉田 功、山室 茂樹

横須賀 朝子

2018～2019年

伊藤 胡桃、山室 茂樹

横須賀 朝子

2020～2023年

横川 博行、山室 茂樹

板橋 洋一

【会計】

2014～2015年

関森 田鶴子、岩田 輝夫

2016～2017年

関森 田鶴子、横川 博行

2018～2019年

小田 島寛、横川 博行

2020～2023年

小田 島寛、井上 俊夫

【総務】

2014年～2023年

佐藤 勝昭、橋本 周

【監事】

2014～2017年

伊藤 胡桃、伊藤 志津子

2018～2019年

花輪 佳子、吉田 功

2020～2023年

正岡 皎、横須賀 朝子

【からむし編集委員会 委員長】
（2021年まで広報部長）
2014～2019年

関森 田鶴子

2020～2023年

横須賀 朝子

【文化サロン部 部長】

2014～2018年

森 妙子

2019～2023年

板橋 洋一

【アカデミー部 部長】

2014～2016年、2020年

吉田 功

2017～2019年、2021年

馬場 美智子（身江子）

2022～2023年

山室 茂樹

【美術工芸部 部長】

2014～2019年

山本 絢子

2020～2021年

岩田 輝夫

2022～2023年

小田 島寛

【舞台芸能部 部長】

2014～2020年

中島 邦子

2021年、2023年

伊藤 胡桃

2022年

正岡 皎（岳皎）

米寿記念

「書と教育」二刀流展」
笠原秋水個展

風薫る好季節。5月14日より18日まで、新百合トウエンティワンホールにて、笠原秋水先生米寿記念の個展が開催されました。麻生区文化協会の後援のご支援もあり、連日大盛況、5日間で795名の来館者でした。

展示は、書作68年の回顧展と教育実績68年の軌跡展という二部構成、まさに先生の二刀流が見られました。



書部門の作品総数48点、入口正面舞台の超大作「川の流れのように」は会場の中で圧巻でした。17日(土)のギャラリートークで、先生がこの作品への思いを語られ、一層作品が心に沁みました。また、不戦への願いを込めた「崖」や「響けよ不戦の鐘」の作品についても語られ、話を聞いて涙される方もいました。先生の作品への強い思いは今回発刊された記念誌にも掲載されています(二刀流記念誌、実費にて頒布します)。

教育部門の展示は「硫黄島」「書写活動」「個性開花のことばの教育実践」「校歌・校名・碑」「野球」「多趣味」など、100を優に越える資料の展示。良くとつておられたと思う懐かしい資料ばかり。二刀流？いや。五刀流位だと思わずにいられません。

17日(土)の祝賀会「書が奏でる宴」は130名の招待客で楽しい会となりました。元東宝女優の近藤京子さんと神奈川書家クラブ代表船本芳雲氏のステージトーク、そして秋水先生オンステージは懐かしい昭和の歌の数々…。

個展開催にご協力くださった方々、ご来場くださったすべての皆様に感謝です。

(個展実行委員長 飯山 青秋)

舞台衣装の女優さんを
描くデッサン会

昨年40周年を迎えた麻生区文化協会とともに長い歴史を重ねてきた伝統のデッサン会は、例年「劇団民藝」のご協力のもとに、「舞台衣装の女優さんを描くデッサン会」として企画し、主に一般の方の参加を募って開催して参りました。

今年のデッサン会は、9月6日の午後、市民館大会議室にて開催しました。台風の接近が危ぶまれたものの、朝から晴天に恵まれ、30名を超える参加者を迎えて開催しました。

モデルには、「煮えきらない幽霊たち」に出演した着物姿の新澤泉さん、「記憶の危うさについて」に出演した金井 由紀さんのお二人が紹介されました。

事前に舞台上の1コマの情景を説明いただき、役になりきつての表情やポーズには雰囲気もあり、参加者のデッサンにも気合いが伝わってきました。

デッサン指導には麻生区美術家協会の三村 修一さん、千葉 純子さん、松田 洋子さん、佐藤勝昭さんをお願いしました。

なお、今回描かれた作品は、来年

3月2日～8日に21ホールで開催予定のアルテリッカ新ゆり美術展2026において、デッサン部門に任意出品されます。

来年、42回目のデッサン会は6月開催を予定しています。

(美術工芸部長 小田島寛)



夏休み子ども文化教室

例年は「夏休み親子教室」として夏季休暇の初めに、小学生を対象として、いろいろな学びの機会を提供して来ました。今年は同様の企画で「子ども文化教室」として開催するべく募集しました。応募者は3名(昨年は193名)しかおらず、教室として成り立たないため、やむなく全面休止とさせていただきます。応募者減の要因として、案内チラシの配布方法や教室内容、実施時期などが挙げられると思います。

今後、これからの「子ども文化教室」について、子どもたちの体験や学びはどうあるべきか、講座内容や実施時期についても、皆様のご意見をいただきながら、役員会等で検討を進め、準備をしていきたいと考えています。

第37回俳句大会開催へ

第37回俳句大会に向けての事前俳句募集には、428句の応募がありました。選者22名の方々による選句の結果、入選作品9句、優秀賞作品20句が決定いたしました。

★10月18日(土)俳句大会

○第一部の式典において表彰させていただきます。

○第二部での当日席題句会では一人一点の俳句を募り、相互選により10賞が決まり記念品が授与されます。

多くの皆様に俳句大会にご参加いただき「一日俳人」を目指し、秋のひとときをお楽しみいただきたいと思います。

(アカデミー部副部長 橋本周)

アルテリッカ 新ゆり美術展

2025

「アルテリッカ新ゆり美術展2025」は、3月3日～11日、新百合トウエンティワンホールで開催されました。この美術展は、今年17回目を迎えました。

麻生区美術家協会は、洋画14点・日本画3点・工芸1点、彫刻1点の計19点を展示、麻生区文化協会は、絵画5点、いけ花7流派合作1点、書6点、写真12点、工芸彫刻11点の作品計35点の展示に加え、文化協会主催の「舞台衣装をつけた民藝の女優さんを描くデッサン会」参加者の作品13点の展示を行いました。



会場風景

また川崎ジュニア文化賞を受賞した小学生の作品7点、および、桐光学園高校生による絵画作品24点が特別展示され好評でした。
初日の10時には、富山省吾アルテリッカ実行委員長、中村茂川崎市文化財団理事長をお招きして、ささやかなオープニングセレモニーを行いました。
悪天候にも関わらず、期間中1330人のご来場者に参観いただきました。

(実行委員長 佐藤勝昭)



富山アルテリッカ実行委員長



川崎ジュニア文化賞受賞作品展

ミューザ川崎 市民交響楽祭

2025

8月31日、「ミューザ川崎市民交響楽祭2025」を開催しました。ミューザ川崎市民交響楽祭はミューザが開館した2004年から、川崎市アマチュアオーケストラ連盟が川崎市から依頼されて毎年開催している演奏会で、連盟に加盟している川崎市内の4オケが幹事を順番に担当し、今年は麻生フィルが担当しました。今年は市内の多くの方に生のオーケストラを聴き楽しんでいただくため、市内の小学生を1名につき、保護者1名まで計200組を無料招待することにしたところ、倍以上の申し込みがあり、驚きました。曲目も市民館舞台では演奏できない大編成の曲、レスピーギ・交響詩「ロー



ミューザ川崎市民交響楽祭2025

文化協会のこれから

マの祭り」「ローマの噴水」や、どこかで聞いたことがあると思われるラフマニノフ・ピアノ協奏曲2番を選び、演奏。アンケートでは、「子どもが大変楽しんで聴いていた」とか、「沢山の打楽器に驚いた」等あり、企画してよかったと思いました。

(横須賀朝子)

麻生区文化祭

※詳細は総合パンフレット参照

◆邦舞邦楽・吟舞吟詠

10月18日(土)10時開演ホール

◆俳句大会

10月18日(土)13時開始大会議室

◆麻生フィルハーモニー管弦楽団

10月19日(日)14時開演ホール

◆美術工芸展

10月24日(金)～29日(水)

個人展示 市民ギャラリー

団体展示 ウォールギャラリー

◆洋舞

11月2日(日)16時半開演ホール

《2026年》

あさお古風七草粥の会

1月7日(水)麻生区役所前広場

文化講演会

2月14日(土)14時 大会議室

アルテリッカ新ゆり美術展

3月2日(月)～8日(日)10時～18時

新百合21ホール

編集後記

今年も昨年より暑い夏でした。毎年、暑さは前年を上回るようになるのでしょうか。ため息ですね。

「処暑」をすぎた時点で友人から「酷暑見舞い」のハガキが届きました。なんだか、これから時代の習慣になりそうな気がしました。我々世代ではハガキは、まだ有効な通信手段となっていますが、学校でタブレットを使用している小学生・中学生では、ハガキに対してあまり馴染みはないのでしょうか。夏休み子ども文化教室では申し込みハガキを使用する子どもがとて少なかつたようです。時代の流れを感じてしまいました。

(横須賀朝子)

【編集委員】

板橋洋一、井上俊夫、小田島寛、木村幾子、佐藤勝昭、橋本周、横須賀朝子

麻生区文化協会会報

からむし第77号

2025(令和7)年9月30日発行

発行人/麻生区文化協会

会長 板橋洋一

編集/麻生区文化協会広報部

川崎市麻生区万福寺1-5-2

麻生文化センター内

☎044・951・1300

印刷/㈱エリアブレイン